

春夏秋冬



武蔵野会ニュース No. 160 平成28年1月15日
発行 社会福祉法人武蔵野会
本部 東京都八王子市台町1-19-3 TEL042(623)8509
<http://www.musashinokai.jp/>

新年のごあいさつ



施設公開にて
練馬区立大泉町福祉園

トピック 改革の中で

いつの時代にも、社会の種々の制度等について何らかの改革の必要性が叫ばれるものですが、現在進んでいる社会保障制度改革は、急速な少子高齢化の進行や人口減少という、我が国の社会構造に起因するものであるだけに避けて通れない大きな課題であると思います。

ただ、年金や医療制度などに一定の改革はやむを得ないとしても、社会福祉法人が主な担い手となっている子どもや障害者、低所得者に対する福祉サービスについては、それぞれの予算が社会保障給付費全体の中で占める割合がOECD加盟国内で日本は最低に近い位置にあることから考えて、なお充実させる必要があることを忘れてはなりません。

社会福祉法人として、そのような真に支援を必要とする人々を今後とも守り続けるためにはどうしたらよいか。今年度、全常勤職員を対象として25回に分けて行ったダイヤログ研修では、終戦後の戦災孤児の救済から始まった、武蔵野会初代理事長となる保田義男氏の取り組みや高い志から振り返り、近年の理念経営の構築や社会貢献事業の実施の意義等について語り合う中で、みんなで考えました。

11月に開催した武蔵野会セミナーで基調講演をいただいた炭谷茂氏の、「ソーシャルインクルージョンの理念の推進」についてのお話も、社会福祉の原点について改めて考える上で、とても有意義なものでした。

また、今年度は、現在進行中の4施設や今後予定の施設の全面建て替え等に必要な多額の経費負担につき、法人全体で支え合う体制を構築することができました。

制度改革等の大きな動向の中で、武蔵野会の立ち位置を固め、社会福祉法人としての使命をこれからもしっかりと果たしていく必要があります。

社会福祉法人武蔵野会 理事長 上野 純宏

謹賀新年

理事長 上野 純宏



皆様には旧年中大変お世話になりました。今年も、年明け早々に始まる通常国会で、昨年9月に継続審議となっていた社会福祉法の一部改正案が議決されると思われまます。経営組織のガバナンスの強化、事業運営の透明性の向上、社会福祉事業や公益事業への余裕資金の計画的な再投下、等々。武蔵野会として既に対応済み事項もありますが、新たに取組まなければならないものも多数あります。

昨年11月末に無事竣工した小平福祉園を除く3施設の建て替え工事の円滑な進行も課題です。皆さま方のご支援を本年もよろしくお願い申し上げます。

ご支援に感謝します

後援会長・評議員 石谷 暢司



昨年中は、ご支援とご協力を賜り深く感謝申し上げます。本

会は武蔵野会の独自の後援会組織として34年の間継続して会員として協力者の皆様の温かいご支援をいただいております。

いま、武蔵野会の更なる発展に寄与するために『新会員を増やすキャンペーン』を展開しています。施設・事業所の入り口などに、小さな幟と新パンフレット・募金箱の三種類を置き来訪の皆様へご加入を呼びかけています。お目にとまりましたら、本会の趣意にご理解とご賛同をお願いいたします。なにとぞ本年もよろしく申し上げます。

いました。昨今外国旅行者が多いとはいえ、次の利用者への予測した心配があれば、他の仔細なことは気にならないものです。多様な目に見えない対人関係で予測した対応が大事であることを改めて感じました。

渡辺 瞭



社会が成熟するにつれ武蔵野会の果たすべき使命がますます高まって参ります。私の出席している「葛飾地区実践セミナー」や11月3日に開催された「武蔵野会セミナー」を拝聴していると、取り組みの日々の進化を感じます。今年も職員一同の理念と知恵で積極的に責任を果たしたいものです。

村山 悦正



選挙権年齢が70年ぶりに18歳に引き下げられます。今夏の参議院選挙から適用されるとのこと。歴史的にも記念すべき最初の選挙で、若年層の投票率低下に歯止めをかけるためにも、十代の投票行動に期待しております。



法人役員挨拶 (順不同)

【理事】

青木 昌子



過日、旅先のホテルの室内テレビの表示が外国語のみになって

廣本 肇



雪雲に覆われた世界は枯れ果てたように見えますが、今この瞬間、植物たちは凍てつく地中や冬木立の枝先で芽吹く力を育んでいるのです。

障害福祉に携わって60年。83歳になりました。明日を目指し挑戦します。

今坂 康志



精神科医の今坂です。私は、嘱託医として大島にお伺いして、今年の9月で20年になりました。当時若かった利用者さんとともに年齢を重ね、私もよい年齢になりました。今後、出来る限り法人のお役に立てればと思っております。皆さまにとって今年が素晴らしい一年になりますように心よりお祈りいたします。

青木 秀雄



各位の日夜のご尽力に厚く感謝致します。本年も、隣人愛と深い洞察をもって生活の質向上のために励んで下さい。社会福祉に立ちほだかる困難は深刻な状況ですが、よりよい環境が拓かれんことを心より念願致します。

高橋 信夫



社会福祉法人改革を掲げ法改正を推進しています。理事会、評議員会の責任の明確化、財務規律の確立はともかく、社会貢献事業の義務化は民間の自主性に反する内容ではあります。が真摯に受け止め、法人の発展に繋がりたいと思っております。

金森 仁



ロシア、ベトナム、中国への出張が多いこの頃です。日本の福祉環境は恵まれていてと思います。が、現状に甘んじることなく、更に改善を求めたいと考えております。今年もよろしく申し上げます。

我妻 弘



今年は申(さる)年。「申」の字の原型は稲妻をかたどった象形文字で「伸」の原字。草木が伸

びきり、果実が成熟して堅くなった状態を指すそうです。武蔵野会の事業態勢が一層成熟する年になることを期待しています。

【監事】

春日 完和



施設を訪れた際、利用者皆さんの笑顔や元気な挨拶に接したり、施設長や支援員と利用者との心を通わせる会話に接することができ、ここは利用者にとって大切な心の場所であることを実感しています。

谷口 健吉



新年あけましておめでとうございませう。社会福祉に多大な貢献をしている武蔵野会で活躍されている皆様に感謝し、この一年が利用者の皆様とともに、健康で楽しい年でありますよう、心から祈念しております。

むさしの武蔵野

子どもの貧困

子どもは生きるエネルギーに溢れています。まわりの大人とのかわりや子ども同士の関係からすくすくと成長してくことができます。しかし、17歳以下の日本のこどもの6人に1人、300万人が貧困のもとで暮らしています。特に深刻なのは、ひとり親など大人が一人の家庭です。2人に1人のこどもが貧困で、先進国では最悪の水準となりました。これらは、相対的貧困率と呼ばれ、社会で大多数が「当たり前」と思っている生活ができず、社会参加できない人の割合をさします。母子家庭の8割の母親は働いていますが、低賃金に抑えられ十分な収入を得られません。貧困は親から子へ連鎖します。十分な教育を受けられないことが、正規雇用につながらず、その子ども達も同じ環境から抜け出せなくなるのです。貧困は複雑な理由が絡み合っている、結果的に子どもの生きるエネルギーや可能性や選択肢まで奪っていきます。

2013年に「子どもの貧困対策法」が成立しました。支援の柱は「教育支援」「生活支援」「保護者の就労支援」「経済支援」の4

つです。実際には、子どもへの学習支援などの教育支援が中心です。昨年8月に、ひとり親の帰宅時が遅い子どもの居場所づくりや市町村の相談体制整備の支援など、本格的な子どもの貧困対策が始まったばかりです。貧困対策では、自治体の取り組みも大きな鍵をにぎります。足立区では、「早期発見・早期支援」として、妊婦が母子手帳を受け取る際の届け出にパートナーとの関係や生活費などで困っていないかの欄を設けたり、小学校1年生の全世帯に所得や子どもの健康や食生活の状況をプライバシーに踏み込んで調査し、具体的な支援に取り組むといわれています。民間レベルの地道な活動はすでに始まっていて、無料の学習教室や家庭訪問による親への子育て相談、ボランティアなどが食事を作って提供する子ども食堂などがここ数年の間に増えていきました。練馬区でも子ども食堂を光が丘の団地の自治会が中心となり立ち上げる動きがあります。深刻なこどもの貧困問題に、社会福祉法人として、また、福祉にたずさわるものとして取り組むべきことがあるのではないのでしょうか。

練馬区立光が丘福祉園

多々良 康子



すぎな愛育園
施設長 古島福江



きね川福祉作業所
施設長 大和田卓



西水元あやめ園
施設長 松岡利明



世田谷区立駒沢生活実習所
施設長 木村文孝



練馬区立北町福祉作業所
施設長 川野文幸



小平福祉園
施設長 大島安彦



世田谷区世田谷福祉作業所
施設長 野々村武志



希望の里
施設長 山内ゆきみ



法人本部職員



リアン文京
施設長 山内哲也

明けましておめでとようございませす
本年もよろしくお願いたします
社会福祉法人武蔵野会職員一同



八王子福祉作業所
施設長 石野哲郎



練馬福祉園
施設長 我妻 弘



大島恵の園
施設長 横尾泰朗



世田谷区立九品仏生活実習所
施設長 村山俊彦



さくら学園
施設長 宮原康輔



武蔵野児童学園
施設長 山田貴美



第2大島恵の園
施設長 岡部智彦



練馬区立大泉町福祉園
施設長 金子陽介



練馬区立光が丘福祉園
施設長 多々良康子



千代田区立障害者福祉センター
施設長 須永 正



東堀切くすのき園
施設長 金澤正義



白鳥福祉館
施設長 吉倉美佐子



八王子市心身障害者福祉センター
施設長 峯尾常雄



世田谷区立烏山福祉作業所
施設長 福元 興



練馬区立光が丘障害者地域生活
支援センター「すてっぷ」
所長 三澤朋洋



八王子生活実習所
施設長 安田喜人

ニュース ラウンジ

武蔵野会セミナー

今年度の武蔵野会セミナーは、11月3日文化の日、霞ヶ関のイイノホールにて、「行きにくさを抱えた人たちにどう向き合うか」「罪を犯した障害者の支援者ネットワークを広げる」をテーマに開催しました。

基調講演では恩賜財団済生会理事長の炭谷茂氏より、「激動する社会、社会福祉の理念と役割は何



基調講演での炭谷茂氏

か」を演題に講演が行われ、児童、高齢者、若者、障害者、刑務所出所者など、様々な社会問題の背景について話されました。また、その問題に対処できていない地方自治体、社会福祉法人の現状と済生会の取り組み、刑務所出所者など社会から排除されがちな人も対等な立場で働ける「ソーシャルファーム（社会的企業）」の必要性など、熱のこもったお話が聞けました。

後半は、「もう刑務所には戻らない」（伝える）伝わる、そこから始まる支援）をテーマに、NPO法人日本障害者協議会理事赤平守氏をコーディネーターに、八王子医療刑務所福祉専門官鶴飼マリ子氏、原町青年寮地域生活援助センター所長笹生依志夫氏、当法人より本部長の高橋信夫氏が登壇し、それぞれの立場からの報告がされました。刑期を終えた刑余者の現状、それを支える実践と刑余者への支援者の孤立、社会福祉法人の刑余者への理解の低さと受け入れの少なさなど、当日参加した司法福祉関係者など500名の参加者に対して、障害を持つ刑余者が刑務所に戻らなくてもすむにはどうすればよいのかと問いかける貴重なセミナーとなりました。

平成26年度 支援実践集表彰式



最優秀賞の表彰

平成26年度の事例実践集が11月1日に発行されました。それに合わせ、11月3日の武蔵野会セミナーの会場で優秀者の表彰式がありました。法人内の24施設から集まった事例の中で、理事長・春日監事・高橋本部長による厳正な選考により、5つの事例が選ばれました。今年度の受賞者は最優秀が八王子生活実習所。優秀が武蔵野児童学園、練馬福祉園、西水元あやめ園、千代田区障害者福祉センターでした。華やかな場所での受賞に、ほこらしげでした。

新施設の完成

小平福祉園

施設の老朽化に伴い、建て替えの話を始めてから完成まで5年の歳月が経過しました。小平福祉園は昭和48年に開設し42年となります。元都立施設として入所施設の建て替えは東京都も初めてでしたので、全てが手探りとなりました。特に施設の建て替え中は同じ敷地で生活することができず、2年4ヶ月の間、隣の西東京市に仮設施設を建て生活しました。

今回施設の完成に伴い、昨年11月28日（土）、29日（日）の2日間新しい施設に引っ越ししました。施設機能を全て移すことを2度行うことは想像以上に細かい準備が必要でした。特に利用者の皆さんも、2度の引っ越しは盲重複障害という特性から大変だったと思います。

今回の建て替えに合わせ、今年4月が始める通所事業も計画しました。児童発達、放課後デイ、生活介護、就労継続B型の4事業を予定しています。既存の入所施設のサービスを生かしながら、障害を持つ方々を始め地域生活を共にする住民の皆様が安心のできる



車道面から望む

サービスを提供し、法人の理念を基本とした地域支援の柱となる拠点施設を目指します。

創立20周年

きね川福祉作業所

きね川福祉作業所は、葛飾区から社会福祉法人武蔵野会への事業移管から10周年を迎えました。昨年の10月24日に「10周年を祝う会」を開催しました。葛飾区の青木区長様をはじめ、木根川町会の白井会長様など多数の来賓を迎え、利用者・保護者の方、武蔵野会からは、理事長、本部長、葛飾地区の幹部職員や元施設長が参加し式典を行い、二部では、参加者全員で



葛飾区長青木様よりご祝辞を戴く

歌や音楽を楽しんでお祝いをしました。これまで暖かくご支援いただきました利用者の方、ご家族の皆様、地域の方々、葛飾区関係各位、関係各機関の皆様には心から御礼申し上げます。きね川福祉作業所は、今から45年前の昭和45年に東京都の福祉作業所としてスタートし、葛飾区への移管され、その後武蔵野会への事業移管となり現在に至っています。10周年を機にこれまでの足跡を振り返り、また、次への着実な歩みにつなげていきます。皆様方には、一層のご指導をいただき、よりよい障害者支援や地域福祉を深めていく所存です。



世田谷区立烏山福祉作業所

昨年8月8日（日）、第8回「さぎようしよ祭」を開催しました。あいにくの雨でしたが、近隣から130名を超える来場者があり、ボランティアによるフラダンスショーやマジックショー、歌の披露などで盛り上がりました。

西水元あやめ園

11月9日、職員有志による恒例の「オータムコンサート」を開催しました。「上を向いて歩こう」ほか、計12曲を演奏しました。楽器の音色に耳を傾け、目を輝かせながら手拍子したり歌を口ずさんだり、利用者の皆様に好評でした。

練馬福祉園

開設31年の練馬福祉園は、建物・設備の老朽化が進んでいます。特に居住部分の床の傷みが目立っていました。昨年12月に改修工事（今年度はD・E棟）が始まりました。3月には新しい床で快適に過ごしていただけます。

白鳥福祉館

今年も葛飾区障害者作品展に見学に出かけました。白鳥福祉館は創作活動で作成した季節の貼り絵、張り子の皿、自主生産品の七宝根付け、缶バッジ、ポストカードを出品しました。晴れの舞台に飾られた作品に、「これ私が作ったの！」と利用者の皆さんから笑顔が溢れました。

世田谷区立世田谷福祉作業所

作業の一つに地域の3か所の公園清掃があります。この度、竹箒ちりとりなどアイテムや落ち葉などを運びリヤカーのボディの色をみんな塗り替え、当所の製品ロゴマークも大きく入れました。宣伝効果が楽しみです。

希望の里

週2回、八王子ワークセンターかてかてで野菜を販売しています。出荷前は収穫、洗浄、袋詰め等々で大忙しですがお客様の評判は上々で、希望の里の野菜が並ぶのをわざわざ待っている方もいると聞き、野菜作りの励みになります。

小平福祉園

新しい施設が完成し利用者共々引っ越してきました。皆さんが慣れるまで時間がかかります。もう一つうれしいニュースは3ヶ月半入院されていた利用者が元気に戻ってこられました。この方の支援も頑張ります。

八王子福祉作業所

今年度から、福祉就労希望者の働く力を評価して就労の助言をする、就労アセスメントが開始されました。対象者の中には新卒以外の方も多く、サービスの充実とともに支援に「つなぐ」仕組みが大切と改めて感じます。

お知らせコーナー

1月

- 4日 団体帰省 【大島地区】
- 8日 新成人を祝う会【練馬区立大泉町福祉園】
成人式 【世田谷区立駒沢生活実習所】
- 9日 成人式 【八王子生活実習所】
- 15日 せたがやボロ市出店【烏山福祉作業所】
成人を祝う会 【きね川福祉作業所】
- 16日 平成28年度武蔵野会 職員採用試験
- 23日~25日 作品展（八王子生活実習所合同企画）
【東堀切くすのき園】
- 30日 葛飾地区実践事例報告会 【葛飾地区】
- 31日 大島椿祭りパレード参加 【大島地区】

2月

- 3日~5日 世田谷地区アートフェスティバル【世田谷地区】
- 5日 世田谷地区公開講座 【世田谷地区】
- 7日 故人を偲ぶ集い 【大島地区】
- 11日 わがまち楽習会③(重度障がい者の気持ちを聴く)
【東堀切くすのき園】
- 11日 新春の集い
【千代田区立障害者福祉センターえみふる】
- 26日 八王子地区支援実践報告会【八王子地区】

3月

- 4日 春の集い【世田谷区立駒沢生活実習所】
- 23日 法人新任職員研修（～25）
- 25日 すぎな愛育園卒園式 【すぎな愛育園】
- 26日 きらきら卒園式 【きらきら】

自動車総連からホンダステップワゴンを戴きました。11月24日、本田技研労働組合役員の方4名と東京都社会福祉協議会の方、武蔵野会高橋本部長出席のもと、車輛の贈呈式がありました。今回の寄贈は、善意銀行を通じて応募し、7月に自動車総連に加盟する12社の労働組合連合総会で決定しまし

すぎな愛育園 車両の寄贈



た。新色のミルクグラスパールがとても綺麗な7人乗りの車両です。新車は放課後等デイサービスの送迎などで使用します。関係者の皆様のご厚情に感謝し、今後サービスの質の向上に努めていくことを改めて肝に銘じました。



利用者の送迎に活躍



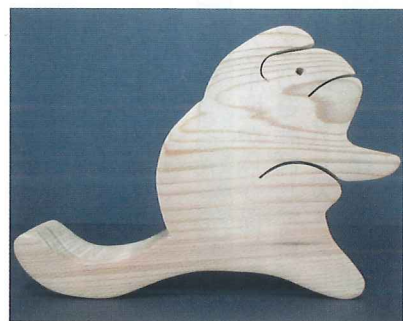
小 972円 中 1,750円 大 3,380円
お問合せは世田谷福祉作業所へ。

世田谷福祉作業所
[ARTLINE]
03・3414・0141
「futacolab」を中心に、世田谷福祉作業所が「アートカード」としてイラスト原画と手すきカードの製作、区内の就労支援施設が焼き菓子製造、デザイナーがパッケージをそれぞれ担当し、ひとつのコラボ商品「アートライン」が誕生しました。

ショーケース 自主生産品紹介 新商品

武蔵野会後援会
社会福祉法人武蔵野会が経営する25施設と6つのグループホームの利用者のために、より良い環境や施設の充実・施設の円滑な運営などを、物心両面から支える組織として、武蔵野会後援会があります。皆様のご理解とご協力により、会の拡大をはかり、法人の運営基盤の確立を応援していますので、ご協力をお願い申し上げます。
〒193-0931
東京都八王子市台町 1-19-3
電話・FAX 042-626-9772

新年の置物ができました。申は、知恵と好奇心の象徴とされています。また、申（サル）が「去る」という意味を表し、「悪いことが去る」や「病が去る」などから、幸せがやってくると言われます。皆様にとって良い年でありますことをお祈りします。



大 1,000円 中 500円
小 200円

希望の里 申の置き物
042・654・7311